

キリスト教保育

年主題 しゅイエスとともに



論説

倉橋惣三の子ども観（2）
—子どもと保育者の関係
西 隆太郎

巻頭言

言葉をたくわえる
小風さち

5

2026 MAY.

あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。

聖書 口語訳聖書・ガラテヤ人への手紙3章28

「人間」とは、人と人との間柄—人間関係を意味します。人が人として互いに信じ合い、愛し合い、助け合っていくような、神の望まれる人間関係を保つためには、どうしたら良いのでしょうか。

一口に「ひとつ」といっても、このことばの内容には、いろいろな意味があります。

そのものだけであること、という意味では相対的なものはしりぞけられて、排他的な唯一、独自の絶対性が強調されます。

つぎに、多くの中の「ひとつ」、という意味では、相対的な同一性、類似性、多様性が認められることとなります。

さらに、二つ以上のものを混合する、という意味では、総合体として「ひとつ」という、統一性が含まれたことばとなります。

聖書が「あなたがたは皆、一つである」という場合、私たちは、どのような意味でこれを理解したらよいのでしょうか。同じキリスト者、教会といえども、現実には様々な違いがあり、キリスト教主義の園に属する私たちも、園での立場は様々で、考え方にも異なる点があります。

しかし、イエスをキリスト（救い主）として信ずることによって、みなキリストという幹に連なる枝であることにおいては、いささかも違いはないのです。

さらに、キリストによって「一つ」となるということは、民族や文化、社会的立場、性的な多様さなどの差異は、いっさい問題とされないのです。同時にまた、何らかの人間的な共通性で集合することや、強制的な統一によって「ひとつ」となることでもありません。

わたしたちは、ただイエスのみが、真のさいわいへと導く方、キリストであるとして信頼をおき、心をつにしていけることを、人間関係の基礎としなければならないのです。

小海 寅之助 執筆（当時・越ヶ谷幼稚園園長）
1973年「キリスト教保育」誌4月号より

新共同訳では「あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」（ガラテヤの信徒への手紙—3章28）です。一部省略、要約してあります。

幼子とともにキリストへ



年主題 しゅイエスとともに

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉 言葉をとくわえる 小風さち

〈論説〉 倉橋惣三の子ども観(2) 西 隆太郎

図書紹介 石川かおる 寺井知香

〈小論〉 保育環境と遊具 ② 藤田春義

聖書にきく・お話 田島靖則

〔カリキュラム〕

5月 月のねがい表

心にとめて 小池裕子

実践報告 向上社オリーブの実

実践からの学び 相川徳孝

心にとめて 鈴木勇樹

実践報告 ときがね幼稚園

実践からの学び 柳下志延

〈連載〉 こどもと工作 堀川 真

〈連載〉 みことばと保育 大漣知子



絵本のとびら 宮本涼香

目福口福耳福 窪田 晴

5月の礼拝のために 加藤早恵

礼拝のお話 高橋陽子

風 有岡史季 編集子 三ッ橋ゆり

連盟だより

カット 中畝治子 藤安初枝 小鯛みのり

松成真理子 菫田とみ子 表紙絵 田中楨子

42 40 39 34 32 31 26 24 23

